Osaka University Knowledge Archive

Title	巻頭言 : 臨床専門家を育てる
Author(s)	大石, ふみ子
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2009, 15(1)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56859
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

－巻頭言－

臨床専門家を育てる

Deveropment of Clinical expert's

2006年6月に成立し、翌2007年4月1日から施行となった「がん対策基本法」の第14条には、「国及び地方公共団体は、手術、放射線療法、化学療法その他のがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成を図るために必要な施策を講ずるものとする」とあります。これを受けて、文部科学省は「がんプロフェッショナル養成プラン」を開始し、全国で18のプロジェクトが採択されました。その一つである大阪大学、兵庫県立大学、京都府立医科大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学の5大学プロジェクトにおいて中心的役割を担う大阪大学は、"がん医療専門コメディカルコース"におけるがん専門看護師養成についても参加することとなり、兵庫県立大学と共に取り組みを開始しました。平成20年4月には大学院医学系研究科保健学専攻内に設けられた「がん看護専門看護師コース」に初めての学生を迎え、大阪はじめ関西地区の将来のがん看護を担う人材の育成がはじまりました。私も含め全国の大学のがん看護教育者の、過去2年間の最もホットな話題の一つがこのいわゆる『がんプロ』についてであり、こうして大阪大学のがんプロフェッショナル養成プランにおけるがん看護専門看護師育成に関わるようになってからは、『がんプロ』において多数生み出されるであろうがん看護専門看護師への、臨床における関心や期待の高さにもまた驚かされています。

我が国の専門看護師教育の歴史は未だ浅く、1996年（平成8年）に日本における専門看護師第一号が生まれてから約11年が経過したところです。登録されている専門看護師の人数は2008年4月現在で238人、うち104人はがん看護専門看護師が占めています。大学院修士課程を修了して臨床の第一線にあるがん看護看護専門看護師のかなりが、病院における教育や管理に関する役割をも担うようになりつつあり、未だ少人数であるにもかかわらずその存在感は大きくなりつつあります。このような中、今年の6月にはNHKのTV番組「プロフェッショナル　仕事の流儀」において、我が国のがん看護専門看護師の先駆けにして大阪府で活躍する田村恵子氏が取りあげられ、臨床現場において見事なキャリアを積み、プロフェッショナルとして働く姿が注目を集めました。

看護職の活躍する場の可能性は限りなく広いものですが、今日の高度医療社会は最前線の病院で働く多数の看護師と共に、精鋭の熟練看護師、専門知識と技術を備えたプロフェッショナルなリーダーを求めるようになっています。今後の医療の現場において、じわじわと力を発揮するに違いないこうしたリーダーたちの一翼が、今回のがんプロ事業において生み出されていく専門看護師によって担われることは疑いないところです。一人一人の小さな力がどのように奮闘し、どのような影響力を発揮するのか、あるいはどれほどの苦闘をすることになるのかと考えこんだり、まさにこれこそが教育の醍醐味とよばれる気分であろうとつらつらと感じたりしつつ、10年20年単位での変化を見つめ捉えたいものだと考えています。

大阪大学医学系研究科保健学専攻
がん看護専門看護師コース　大石ふみ子